

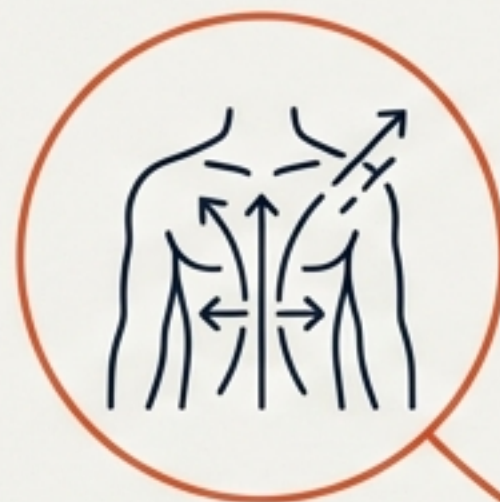
「加速」の鍵は、 「ブレーキ」にある。

バドミントンの物理学から、組織を動かす深層スキルまで



2025年12月25日 PHOENIX愛知 オンライン教室ダイジェスト

強さの本質を探る、3つの「理（ことわり）」への旅



第一章: 身体の理

－ 物理学の逆説



第二章: 組織の理

－ 戦略の逆説



第三章: 心の理

－ 人間関係の逆説

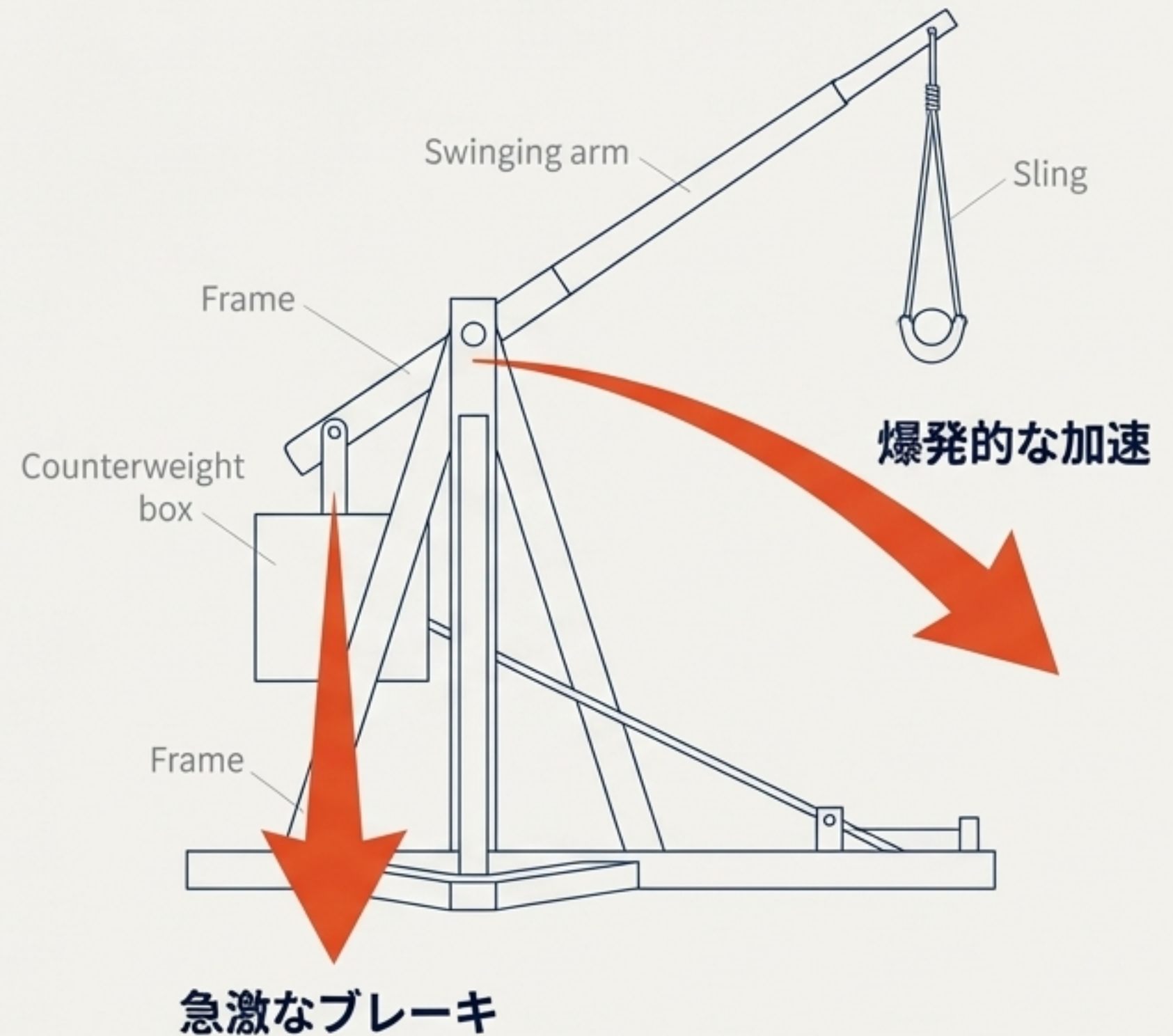
身体、組織、そして心。一見無関係に見える領域に潜む共通の原理を探ります。

なぜ「下がり打ち」は強力なのか？ 古代兵器に学ぶ物理法則

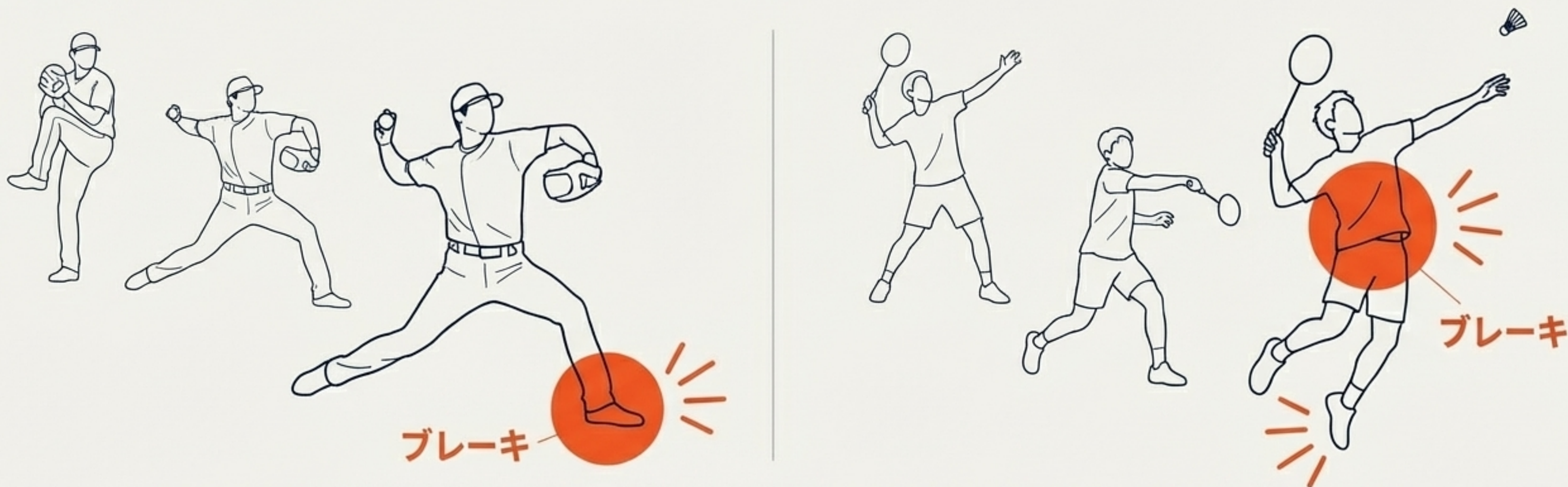
> “急激に止まるからさ、そこでとんでもない速度になるんですよね。人間もね、急激にブレーキかけることによって速度を出させるっていうのが、下がり打ちのメカニズムになっています。”

— 中島ノブヨリ コーチ

- 原理は古代の戦争兵器「**投石機（トレビュシェット）**」と同じ。
- 重りが落下し急激に**ブレーキ**がかかることで、石が**音速を超える速度で射出**される。
- 人間の身体も、前進する力を急激に止めることで、**末端（腕やラケット）の加速に変換**する。



大谷翔平も実践する「逆方向への力」

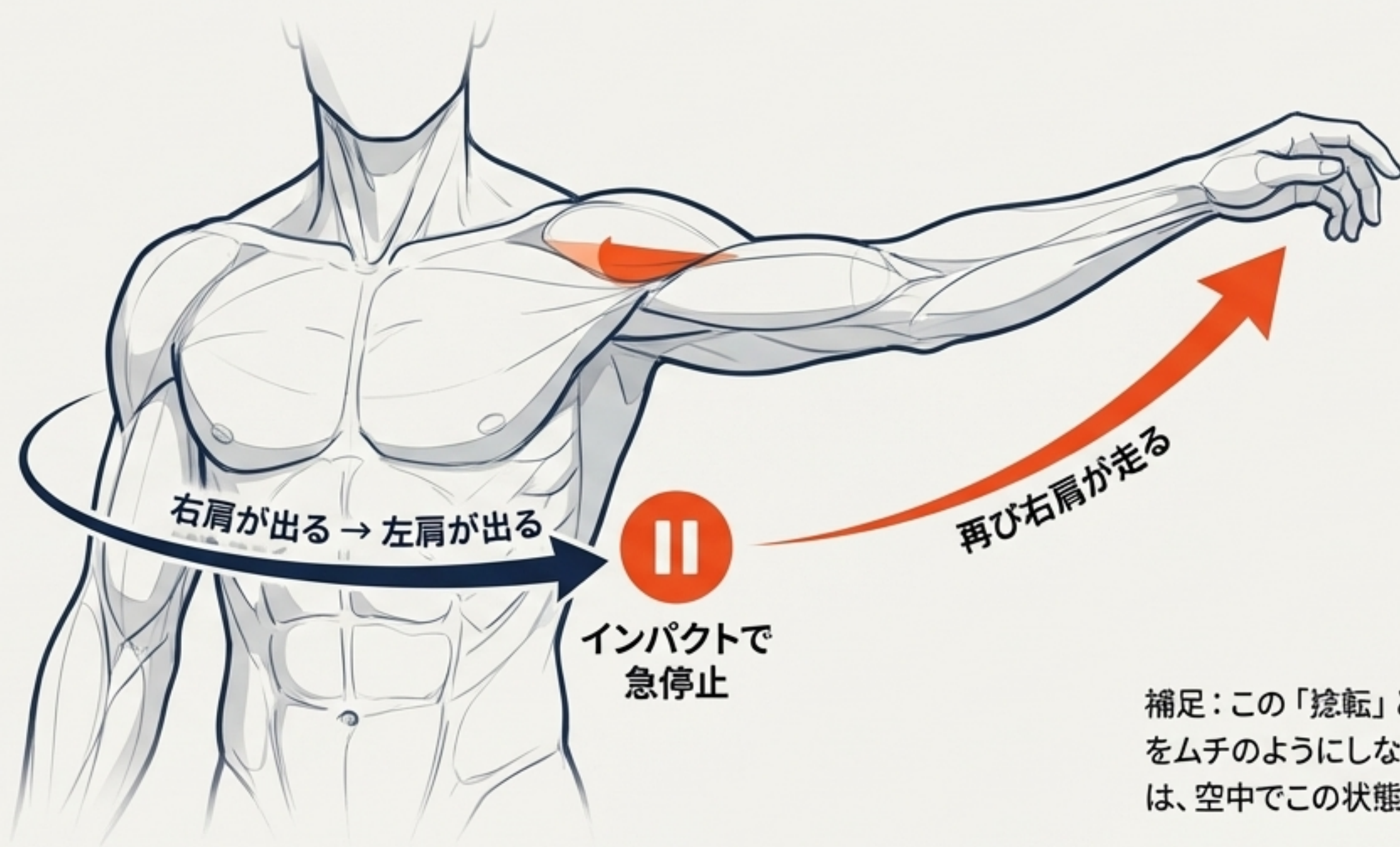


大谷翔平選手や山本由伸選手も、インパクトの瞬間に強烈な「ブレーキ」をかけている。

コーチの分析：「玉の飛ばす方向とね、逆方向に力を加えていって飛ばしてると。全く前に行きながら打ってないですからね。」

この「止まる」動きこそが、爆発的なパワーの源泉となる。

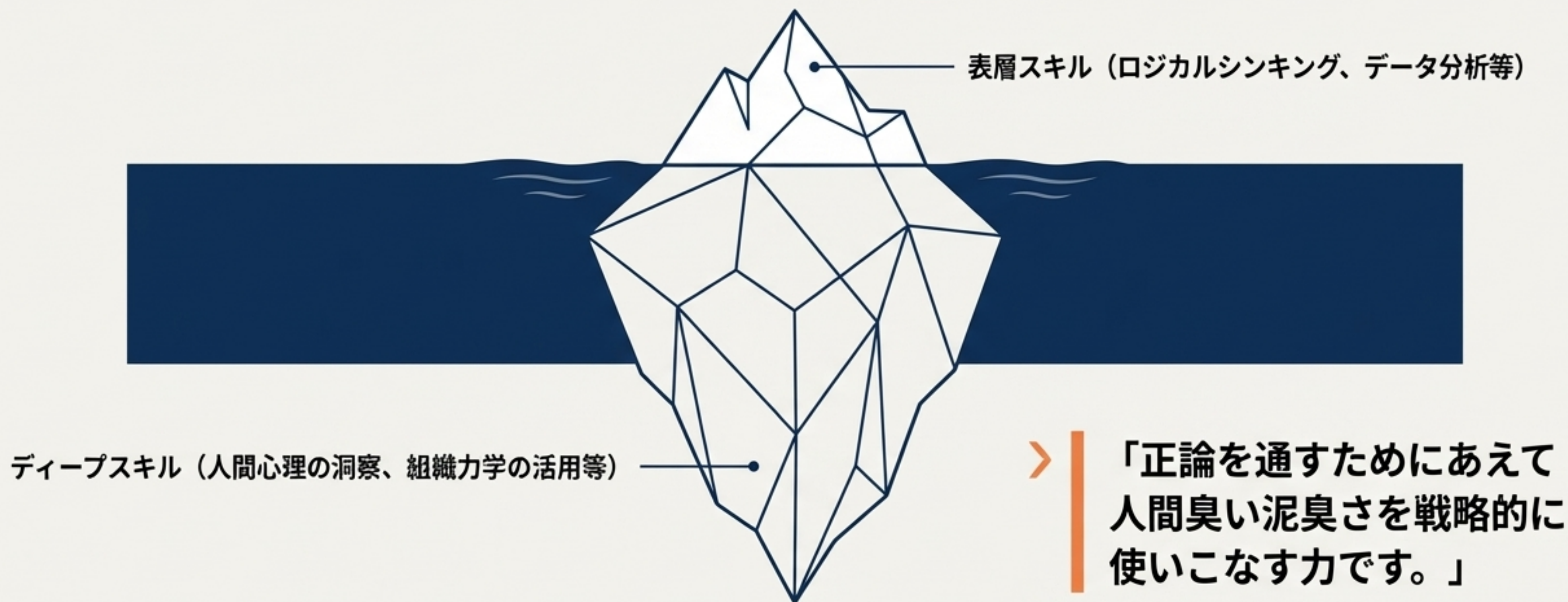
スマッシュの極意：「胴体が腕を追い越す」動きの連鎖



補足：この「捻転」と「ブレーキ」の連鎖が、腕をムチのようにしならせる。ジャンプスマッシュは、空中でこの状態を作り出す高度な技術。

「止まる」ことが最大の「加速」を生む。

この「逆説の力学」は、人間社会にも存在する。



ロジカルシンキングやデータ分析といった「表層スキル」だけでは、組織の理不尽な壁は突破できない。

必要なのは、人間心理と組織力学を操る「深層の技術（ディープスキル）」である。

組織を動かす3つの策①②：上司を「説得」するな



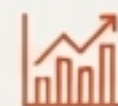
戦術 1: 脚本家になれ（対上司）

上司を説得するのではなく、彼らが活躍する「脚本」を書く。上司をプロジェクトの貢献者として公に認知させ、逃げられない状況（当事者意識）を作る。

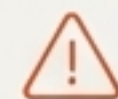


戦術 2: 恐怖心を取り除く（決定支援）

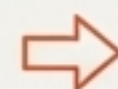
上司が決められないのは「怖い」から。
以下の3ステップで背中を押す。



データ: 言い訳の材料を提供する

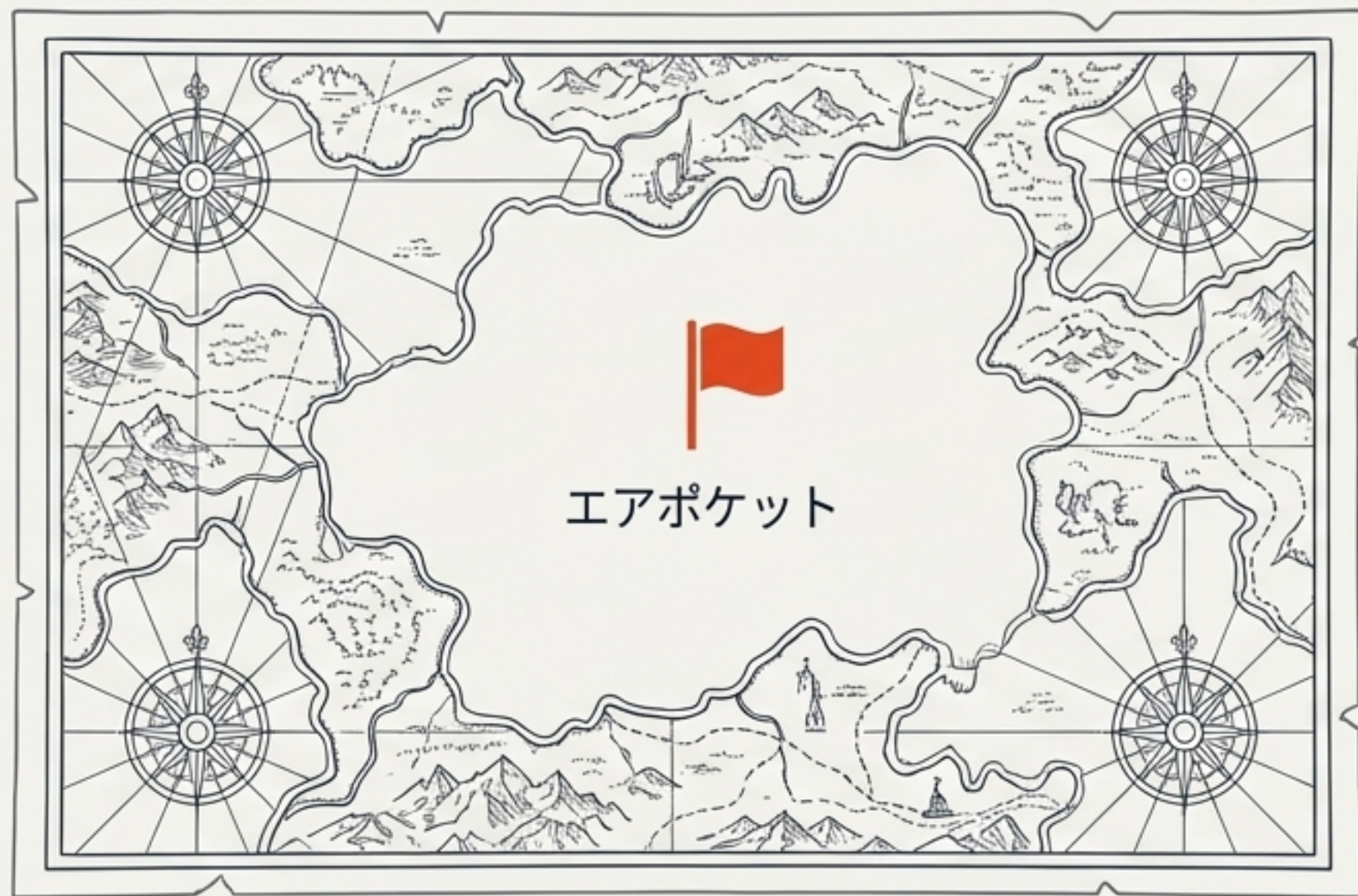


リスク提示: 「やらないリスク」を明確にする



退路を断つ: ワクワクする未来を見せる

組織を動かす3つの策③：「誰もいない場所」を探せ



戦術3：誰もいない場所で第一人者に（ポジショニング）

優秀なライバルと正面から戦わない。
組織内で誰も手をつけていない領域
（エアポケット）を見つけ、「〇〇
のことなら、あの人に聞け」という
圧倒的なポジションを確立する。

正論を「通す」のではなく、脚本通りに「動かす」。

そして原理は心へ。「誰にも嫌われたくない」は自己中心的か？

「思いやり」や「優しさ」は定義が曖昧で、自己満足に陥りがち。

「誰にも嫌われないように振る舞う人」こそ、実は自分を守ることししか考えていないのではないか？



誰からも好かれたいっ
ていう欲求をぶつけて
いく…そんな全然優し
くないですね。むしろ
自己中心的な行動で
はないかと私は思います。

真の愛情とは「あなたがいなくても私は幸せだ」と言える強さ

「あなたがいなくても私は堂々と生きてやります。でもあなたのことは大好きですよ。めちゃめちゃカッコいいですよ。」

「どうでもいい」は、冷たさではなく**温かさ**である。



执着

他者に執着せず、過度な期待をしないこと。
それは冷たさや無関心ではない。
相手の自由を尊重する「温かさ」であり、
執着を手放した先にある究極の信頼の形。



信頼

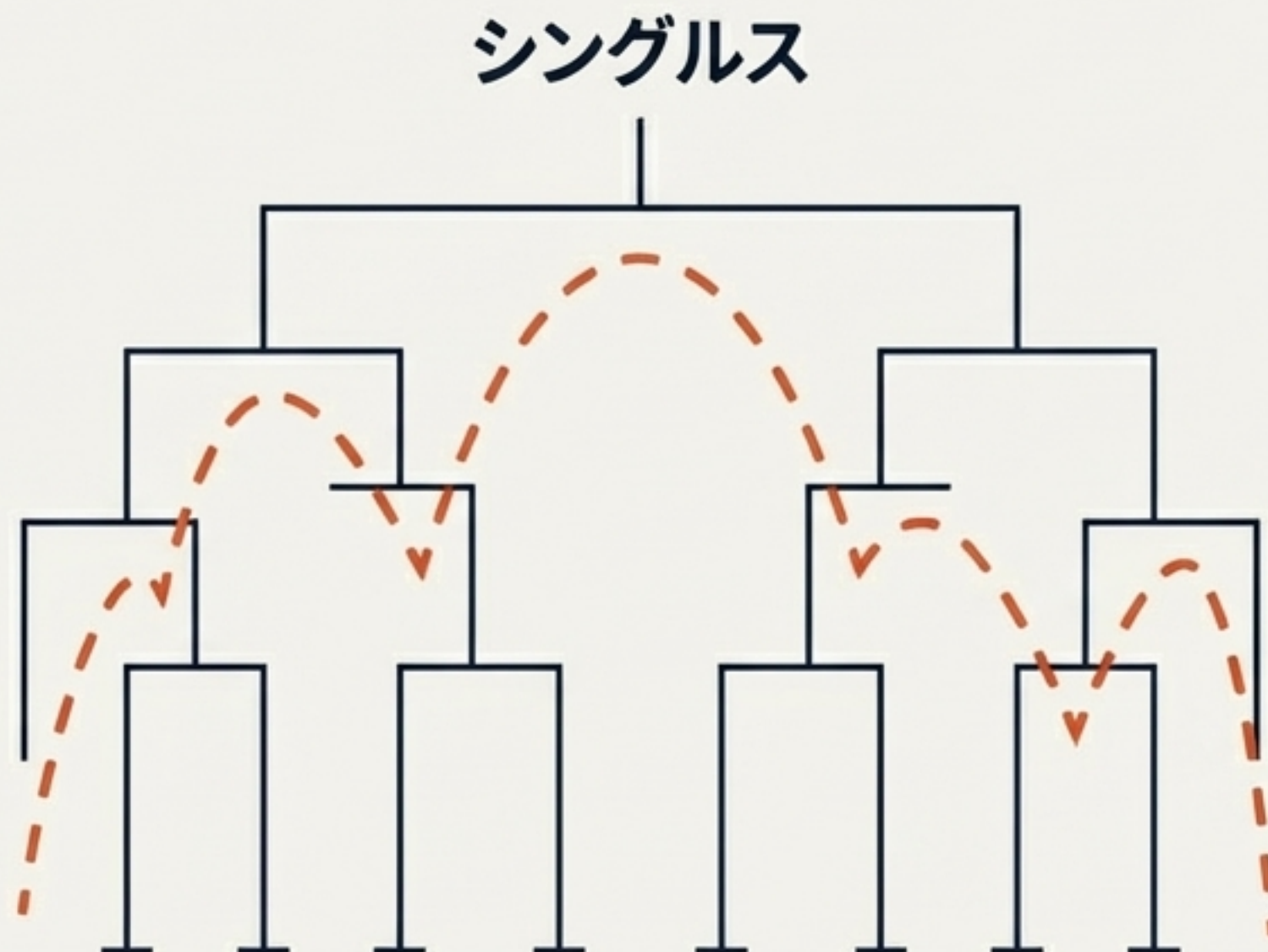
コーチさんは
本当にどうでもいいという思想は温かいんじゃないかなと思いますが…
なかなかここもね、理解できない人多いですよね。

戦慄の「逆コンプリート」現象：メタ認知訓練としてのトーナメント分析

現象の説明

直近の大会で発見された珍事。「自分に勝った相手が、次の試合ですぐに負ける」という連鎖が決勝まで続く現象。勝者が勝ち進むのではなく、敗北がバケツリレーのように繋がっていく。

芸術です。



学び

トーナメント表全体を俯瞰し、勝敗の因果関係を構造的に分析する視点もまた、メタ認知の一つである。

身体・組織・心。すべての「理」は一つの核心に繋がる。



身体的パワー

加速を生むブレーキ



戦略的影響力

正論を通すディープスキル

自立した強さ



成熟した人間関係

執着しない自立した愛

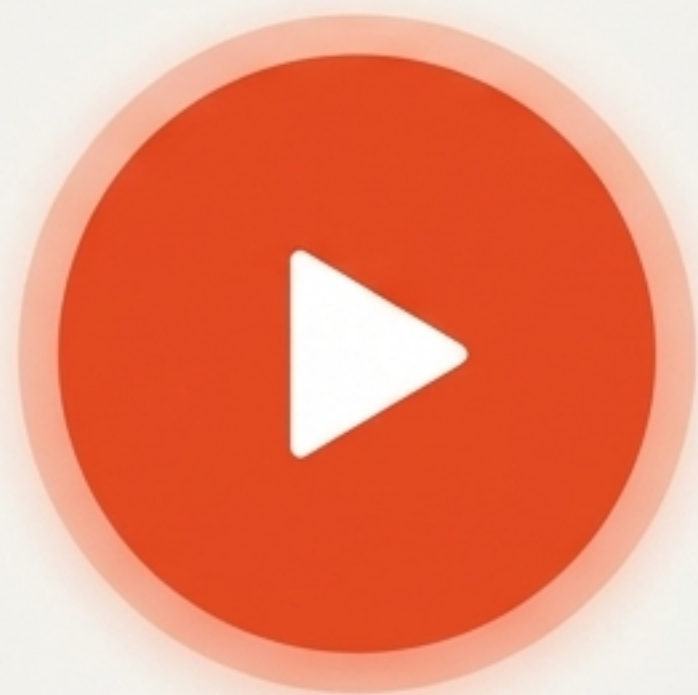
身体にブレーキをかける強さ。組織の理不尽と戦う強さ。孤独に耐える強さ。
そのすべてが、真のパフォーマンスと人間的成熟に繋がっている。



この知的な冒険の全貌を、あなた自身の目で。

- > 今日の話は、オンライン教室で繰り広げられた議論のほんの一部です。
- > この知的な冒険の全貌を、あなた自身の目で確かめてみませんか？

フル動画で、旅のすべてを体験する



PHOENIX愛知 | 次の学びへ



教室名：PHOENIX愛知

連絡先：TEL. 080-6910-0479



ウェブサイト